

平成18年7月6日

日 本 銀 行

補完貸付制度における貸付先の承認の更新手続き等について

1. はじめに

今般、日本銀行では、補完貸付制度における貸付先（以下「貸付先」という。）の承認の更新および新規承認を行うこととしました。

今回の貸付先の更新手続きは、「補完貸付制度基本要領」に基づき、原則として年1回の頻度で行うこととしているものです。

つきましては、現在の貸付先のうち補完貸付制度の利用の継続を希望する、または、現在は貸付先ではないが、これを機に新たに同制度の利用を希望する金融機関等（以下、両者を合せて「希望先」という。）は、下記の要領で申込み手続きを行っていただきますようお願いします。

2. 承認の更新および新規承認の手続き

（1）利用申込み

希望先は、利用申込み締切日までに必要書類を、日本銀行本支店に提出して下さい。

現在の貸付先が補完貸付制度の利用の継続を希望しない場合にも、利用申込み締切日までにその旨を日本銀行本支店までご連絡下さい。

< 利用申込み締切日 >

平成 18 年 7 月 21 日（金）午後 3 時

< 提出する書類 >

(a) 「補完貸付制度利用申込書」(別添 1)

本申込書により、補完貸付制度に基づいて借入れを行うことを希望する日本銀行本店または支店(以下「貸付希望店」という。)を1か店指定していただきます。

(b) 「補完貸付制度の貸付先承認にかかる自己資本比率等報告」(別添 2)

< 提出先 >

希望先の本店その他国内における営業の本拠である営業所等の所在地を業務区域とする日本銀行本支店(本店の場合には金融機構局大手銀行・地域金融・証券・外国銀行担当、支店の場合には営業課または総務課)

(2) 貸付希望店との相対型電子貸付取引の申込み

今回、新たに補完貸付制度の利用を希望する、または、今回の更新を機に借入れを行う店舗の変更を希望する金融機関等で、借入れを希望する自らの店舗が相対型電子貸付取引先でない場合には、7月21日(金)午後3時までにその旨を貸付希望店(本店の場合は金融機構局信用政策企画担当、支店の場合には営業課または総務課)までご連絡下さい。補完貸付制度の利用と併せて、相対型電子貸付取引の開始を申込みいただく必要があります。

(3) 承認結果等の通知および利用開始日

承認の更新または新規承認の結果は、8月上旬を目処に、(1)の書類を受け付けた日本銀行本支店から通知する予定です。

また、今回新たに承認された貸付先は、8月16日(水)より補完貸付制度の利用が可能となる予定です。なお、現在貸付先で、補完貸付制度の利用の継続を希望しない先については、8月15日(火)限りで利用を停止する予定です。

但し、希望先のうち(2)で相対型電子貸付取引の開始を併せて申込んだ先は、事務手続上、9月19日(火)より利用可能となる予定です。

3. 貸付先の承認基準

希望先のうち、別紙の「補完貸付制度における貸付先の承認基準」を満たす先について、貸付先の承認の更新または新規承認を行います。

4. その他

日本銀行では、今後も原則として年 1 回の頻度で貸付先の承認を更新することとし、次回の更新は平成 19 年 8 月を目処に行う予定です。また、今回の申込み期間終了後も、補完貸付制度の利用申込みは随時受け付けますので、念のため申し添えます。

以 上

< 本件についての照会先 >

日本銀行 金融機構局 大手銀行担当 代表：03 - 3279 - 1111
本幡（内線 6328） 陰山（同 6344）

補完貸付制度における貸付先の承認基準

下記の（１）から（４）までを満たしていること。

- （１）金融機関（日本銀行法（平成９年法律第８９号）第３７条第１項に規定する金融機関をいう。ただし、整理回収機構および預金保険法（昭和４６年法律第３４号）第２条第１３項に規定する承継銀行を除く。）、証券会社（日本銀行法施行令（平成９年政令第３８５号）第１０条第１項第２号に規定する証券会社および同項第４号に規定する外国証券会社をいう。）、証券金融会社（同項第３号に規定する証券金融会社をいう。）または短資業者（同項第５号に規定する者をいう。）であること。
- （２）希望先が貸付希望店の相対型電子貸付取引先であること。
- （３）申出の直前決算期末（中間決算期末を含む。但し、申出直前の決算期末の自己資本比率が申出時に判明していない場合には、判明している直近の決算期末とする。以下同じ。）において、自己資本比率が次に掲げる条件を満たしていること、または、申出の直前の決算期末以降の増資等の事情により、自己資本比率が次に掲げる条件を満たすようになったと確認できること。
 - （ａ）金融機関にあつては、国際統一基準適用先（外国銀行を含む。）については自己資本比率８％以上（単体自己資本比率および連結自己資本比率のうち監督官庁に提出しているすべての値について満たす必要。）国内基準適用先については同４％以上（同）、国際統一基準適用先または国内基準適用先の何れにも該当しない先については、業務内容等に照らし、自己資本の充実の状況が適当であると認められること。
 - （ｂ）証券会社にあつては、自己資本規制比率が２００％以上（但し、外国証券会社で、当該外国証券会社を実質的に支配している会社の保証がある場合には、１５０％以上とする。）であること。
 - （ｃ）証券金融会社および短資業者にあつては、自己資本比率が２００％以上（証券会社の自己資本規制比率に準じて算出する。）であること。
- （４）申出直前の決算期末以降の経営の状況その他考査等から得られた情報に照らし、自己資本比率が実質的に上記（３）に定める自己資本比率を下回るとみられる等特段の事情がないこと。

補完貸付制度利用申込書

当(注1) (注2)店は、日本銀行(注3)店において、補完貸付制度の利用を希望します。

補完貸付制度の貸付先として承認された場合には、利用に当って日本銀行が定めるところに従います。

平成 年 月 日

(金融機関等名)(注4)

(役職名、代表者名)

(注5)

印(注6)

日本銀行金融機構局長(注7) 殿

(注1) 当行、当社、当金庫等を記入して下さい。

(注2) 補完貸付制度に基づく借入れを希望する店舗の名称を記入して下さい。

(注3) 上記(注2)の店舗が相対型電子貸付取引を行なっている日本銀行本支店(今回、相対型電子貸付取引の申込みを行なう場合には、同取引を希望する日本銀行本支店)を記入して下さい(本店の場合には「本店」、支店の場合には「支店」と記入して下さい)。

(注4) 外国銀行および外国証券会社の場合には、日本銀行との当座預金取引において業務局(支店業務課)に届出済の和文呼称を使用して下さい。

(注5) 頭取、社長、理事長等が記名なつ印または署名して下さい。

(注6) 金融機関名、役職名、代表者名、印章は、日本銀行との当座預金取引において業務局(支店業務課)に届出済の代表者の印鑑票、署名鑑と同じものを使用して下さい。

(注7) 本店宛ての場合は金融機構局長宛て、支店宛ての場合は当該支店長宛てとして下さい。

この申込みにかかる連絡先(1~2名記入して下さい)

担 当 部 署 氏 名 電話番号

補完貸付制度の貸付先承認にかかる自己資本比率等報告

当(注1)は日本銀行が行う補完貸付制度の貸付先承認のために、以下のとおり、自己資本比率等を報告します。

なお、日本銀行から要請がある場合には、計数の裏付けとなる資料等を速やかに提出します。

1. 自己資本比率(注2)

単体自己資本比率 _____ % (_____ 年 _____ 月末時点)

連結自己資本比率 _____ % (_____ 年 _____ 月末時点)

2. 区分(該当区分を で囲む)

- (1)国際統一基準適用先<外国銀行を含む。>、(2)国内基準適用先、
(3)証券会社、(4)外国証券会社、(5)短資業者、(6)証券金融会社、
(7)その他

3. その他報告事項

((注3)に該当する場合はその概要を記入)

平成 年 月 日

(金融機関等名)(注4)

(役職名、代表者名)

_____ 印(注6)

日本銀行金融機構局長(注7) 殿

(注1) 当行、当社、当金庫等を記入して下さい。

- (注2) ・証券会社においては「自己資本規制比率」(単体自己資本規制比率のみで可)。
・監督官庁に単体自己資本比率および連結自己資本比率の双方を提出している先は、単体自己資本比率および連結自己資本比率の双方を記入して下さい。
・算出時点は申出直前の決算期末(中間決算期末を含む。ただし、申出の直前の決算期末の自己資本比率が申し出時に判明していない場合には、判明している直近の決算期末として下さい)。
・自己資本比率は小数点以下第2位まで記入(同第3位を切り捨て)して下さい。

(注3) 自己資本比率算出時点以降申込書提出締切日までの間に、他の法人との合併、他の法人からの事業の全部もしくは一部譲受け、他の法人への事業の一部譲渡、他の法人からの会社分割による事業の全部もしくは一部承継または他の法人への会社分割による事業の一部承継(以下この項で「合併等」という。)があった場合(該当する先は、その旨を明記して下さい。)には、(注2)の時点の自己資本比率とともに、当該合併等を反映した申込書提出日に直近の時点の実績値を報告して下さい(3.その他報告事項欄に記入して下さい)。但し、実績値がない場合には、申込書提出日に直近の時点の見込み値または監督官庁に合併等を反映した見込み値を提出済であるときはその数値を報告して下さい。

実績値または見込み値の報告に当っては、必ず算出時点を明示し、併せて算出の根拠となる計数等を提出して下さい。また、監督官庁に提出済の見込み値を報告する場合には、提出を証する書面(書式適宜)を提出して下さい。

(注4) 外国銀行および外国証券会社の場合には、日本銀行との当座預金取引において業務局(支店業務課)に届出済の和文呼称を使用して下さい。

(注5) 頭取、社長、理事長等が記名なつ印または署名して下さい。

(注6) 金融機関名、役職名、代表者名、印章は、日本銀行との当座預金取引において業務局(支店業務課)に届出済の代表者の印鑑票、署名鑑と同じものを使用して下さい。

(注7) 本店宛ての場合は金融機構局長宛て、支店宛ての場合は当該支店長宛てとして下さい。